

昭和学園高等学校 花月会 同窓会だより

同窓会だより
号外
令和元年11月4日(祝)
発行元
昭和学園高等学校
学園祭 公開日



※同窓会会長あいさつ※

森山 秀子 (昭和28年卒)

令和元年、母校は創立80周年を迎えることができました。同窓会花月会は、これを記念して去る8月24日マリエール・オークパイン日田にて、総会・講演会・懇親会を開催致しました。

出席していただきました同窓生の皆さん、誠にありがとうございました。

また、創立80周年を祝して調理科・看護科も創立50周年にあたり恩師・同窓生よりお祝いのメッセージをいただきました。どうぞご覧ください。

学校側としましては、80周年を記念して、学園祭が開催され、11月3、4日の両日にかけていろんな催しが行われています。

同窓会花月会もこれに協賛して「同窓会による展示コーナー」を設けることに致しました。主な展示物として、①梶原邦さんのステンドグラス展、②「同窓会だより」発行、特に恩師・卒業生のお祝いのメッセージ等です。

ご来場の皆様、どうぞごゆっくりご覧下さいませ。



令和元年 80周年記念同窓会総会 開催



同窓会役員



総会 理事長挨拶



講演会 今津屋直子先生

※昭和学園創立80周年を祝して※

梶原 邦 (昭和41年卒) 元英国ステンドグラス協会フェロー

目まぐるしい世界経済の変動と共に日本の社会情勢も急速に変化しています。我が国独自の文化や伝統、そして教育の在り方もその影響を受け大きく変化しています。その中でも教育の現場では的確に世の中の動きや変化を捉え、将来社会人となる学生達に生きていく道筋を教えなければなりません。混迷した社会情勢の中で建学の精神を基にして指導していくことは至難なことかも知れません。しかし、わが母校昭和学園高校の今日までの発展成長には目覚ましいものがあります。新築された近代的な校舎の偉容がそのことを立派に証明しています。校内に足を踏み入ると昭和学園高校独特の親しみやすく和やかな明るいオーラが感じられます。私は卒業生の一人として素晴らしい母校の発展に心底喜びと誇りを感じております。80周年誠にありがとうございます。



平田万里 (旧姓:財津) 平成15年 福祉科卒

昭和学高等学校創立八十周年という節目の年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

私が福科へ入学した当時は校名は昭和女子高等学校でした。平成十年に福祉科が開設されましたので、入学した時にちょうど福祉科が三学年揃ったという形でした。介護福祉士の国家資格取得を目指し、クラス全員一丸となって勉強に励んだ記憶がございます。

高校生活で特に心に残っていることは部活動です。弁論部に所属し、関心のあった途上国の貧困や地雷をテーマとした内容で、数多くの大会に出場させて頂きました。私は文章を書くことも、人前で話すことも大変苦手でしたが、人よりも探求心や好奇心が旺盛で、何でも挑戦しようという気持ちだけは常にあったように思います。そんな私を一から指導して下さった恩師が、同窓会花月会現会長の森山秀子先生でした。先生は国語の教師でしたので、いかに相手の心に響かせるか、言葉一つとっても深く掘り下げ、大変熱心に指導して下さいました。スピーチの練習に明け暮れた当時の校舎(視聴覚室)や体育館の光景は、色褪せることなく、私の目に焼き付いています。

三年生になった平成十四年には男女共学となり、生徒会長として貴重な経験をさせて頂きました。

卒業後は四年大学で社会福祉を学び、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格を取得しました。現在は、二人の娘を持つ母となり、日田から遠く離れて暮らしておりますが、里帰りをした際に、近代的な校舎に生まれ変わった学校の近くを通りますと、活気ある生徒の皆さんの様子が伝わってきて感慨深い気持ちになります。

卒業して長い時間が経ちましたが、高校時代に学んだことは今の自分の原点であり、かけがえのない青春の思い出です。支えてくださった先生方、共に同じ時間を過ごした同級生たちと今も連絡が途絶えることなく続いていることに、心から感謝しています。

最後になりましたが、昭和学園高等学校のますますの飛躍と発展、関係する皆様のご健勝を祈念してお祝いの挨拶とさせていただきます。



懇親会 日舞 加隈さん



懇親会 剣舞 樋下さん



懇親会会場

※看護科恩師より50周年を祝して※

衛生看護科

飯田 絹子 先生

看護科50周年を振り返って

同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。

この度、貴校の創立80周年、看護科50周年を迎えられ、お慶び申し上げます。

私は、看護科創立時より、外部講師として、基礎看護、内科看護を受け持っていました。

看護科1期生の皆様が定年を迎えられる程の歳月が経っているのかと感慨深いものがありいろいろ思い出します。

50年前頃、私が日田に帰ってきた時、看護婦の給料は下駄と同じくらいだと言われたのはショックでした。そのような日田の看護が発展途上の時代、昭和女子高校に看護科が設立されたことは画期的で、地域の人々が安心して医療を受けられると大きな喜びだと受けとめました。

そんな中、1期生は、自分達が結果を残さなければ後が続かないと、高い責任感で頑張っていました。特に、解剖生理、細菌学には大変だったようです。その基礎学が終わり、実習に臨む前に、戴帽式があり「ナイチンゲール誓詞」を朗唱、心にしみ込ませて、その後から一段と厳しい中にも希望にあふれた表情になっていたのを思い浮かべます。

卒業後、いろいろな医療分野で活躍されている姿を見て、頼もしく、嬉しい気持ちです。

ありがとうございます。

私は、82歳過ぎまで、福祉機関に勤めながら、外国旅行等楽しみました。今では、小旅行したり、フラダンスで施設慰問などして、健康に過ごしています。

貴校のさらなるご発展と、皆様方のご健康とご活躍を祈念します。



衛生看護科

西 田鶴子 先生

看護科創立50周年おめでとうございます。

私は退職後近くの病院で平成23年12月、73才まで看護の仕事に従事しました。私が学生だった頃又、看護婦として働いていた頃の事を思い出します。今のこの様な社会情勢、医療看護の有り方等、考えられませんでした。今人工知能を駆使しロボットの力もかりた看護も進んでいます。それも大事なことでしょう。

でももっと大事なことは私達が患者さんと直接お話し対応していくことだと思います。私も仕事を離れて9年になりますが、その時接した人、又その御家族よりお声をかけていただきます。医療看護の有り方がどんなに変わろうともその根治にあるものは人間愛だと思います。

みなさん、患者さんには、どうぞ精一杯の温かい気持ちで接してあげてください。

卒業生の皆様から音信を頂きます。本当に頭の下がるすばらしい人生を送っておられ、うれしく思います。どうぞ皆様、ご無理なさりませんように頑張ってください。82才の私から精一杯の応援です。



衛生看護科・衛生看護専攻科

村方 多鶴子 先生

看護科創立50周年おめでとうございます。

平成元年～3年まで昭和女子高等学校の衛生看護科、その後平成6年3月まで衛生看護専攻科で教務主任を勤めさせていただいた村方多鶴子です。8月の記念総会に参加できなくて大変残念でした。

今では校名も校舎も制服もすっかり変わってしまいましたが、気が付けばそれだけの年月が過ぎたと気づきました。私が当時講義や実習で関わった「生徒・学生」も、今やすっかりベテランに成長されていることでしょうか。今、皆さんはどこで何をされているのでしょうか？確か20年くらい前（看護学科創立30周年？）に、一度記念行事に参加し、皆さんがそれぞれの道で生き生きと頑張っていた姿が印象的でした。私は退職後、医療短期大学、4年制大学の看護学部等各地を転々とした後、3年前まで高齢（？）訪問看護師として働き、現在は静岡の大学に勤務しています。今でもなぜか時々、校歌や「御仏は〜♪」というフレーズを歌えるほど、当時のことを覚えています。



衛生看護専攻科

高瀬 栄子 先生（昭和50年 検査科卒）

看護科創立50周年おめでとうございます。

衛生看護専攻科に平成3年から15年まで勤務していました。

退職後から16年間、自律神経調整セラピーを続けています。

家業のブドウ園の作業もしています。植物の成長と実りを感じ、太陽の光を浴びながら汗を流して楽しんでいます。

セラピーは、体と心と氣を調整し、お客様の自然治癒力が高まるようにと願って施術しています。心が辛くて体が辛くなったお客様も多く、心身がお元気に変化されることを、お客様と共に喜べることに日々感謝しています。この仕事は、私の中では看護だと思っています。好きな仕事を続けられることに感謝と喜びを感じて生活しています。

卒業された皆様も、仕事や家族の事で忙しい毎日だと思います。皆様がご自分を大切に愛おしみ、笑顔で健やかに過ごされますようにと願っております。

ご縁をいただき、ありがとうございました。



※調理科恩師より50周年を祝して※

調理科 園田 節子 先生

昭和学園創立80周年及び調理科・看護科50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また、同窓会記念総会に先生方をお招きいただきありがとうございました。調理科は、昭和43年に福岡私立女子高校をモデルに大分県では初めて調理師養成コースを設置した学校と注目されていたと聞いております。

私が赴任したのは、昭和48年オイルショックの頃、すでに遠い昔の思い出となってしまいましたが、勿論女子高校時代です。「国を興すも、家も興すも女子の教養にあり」という良妻賢母の方針が強かった時代でした。

私は調理師養成コースの教員として、またあの草野本家の真ん前にあった第二花月寮の寮監として勤め始めました。学校では家政科の1年生の副担任(主任は出利葉先生)として、クラスの皆と楽しく過ごしていましたが、2年生になり、担任を任せられて個性豊かで、パワフル！そして教室ギューギュー詰め55人の、この世に咲く花は常に熱気を帯びていました。

一方教科は、専門の内容が深く、教科数も多く実習も含まれ大変でした。さらに、前任の教師がいなくて新任(私と合原先生)2人で悪戦苦闘の日々でした。そして、赴任した翌年は創立35周年学園祭でした。多くの来校者があるので1万食出すとの事で食数の多さにビックリ！(うどん・イナリ・ぜんざい・ケーキと紅茶)家政科の生徒達一丸となり、バザーと展示を目一杯取り組み活気に満ちた充実感を生徒と共に体験できました。

そして、もっと調理技術を向上されて職業人として、社会へ巣立つことを願い、平岡料理学院(久留米)の先生・フランス料理レストラン・フランス料理レストランのシェフ・マリエールオークパインのシェフ、板前さん・湯布院旅館のシェフ・寶屋の社長さんからは中華料理と多くの先生方にそれぞれの専門料理を教えていただきました。生徒たちは、専門職の世界を知る機会が増えて意欲が高まり目がキラキラ輝いて来ていました。

そして、初めてのクラス担任をして送り出した生徒達が平成19年の3月に「還暦のクラス会」を催しました。月日の経つ速さにビックリしました。卒業生達が各分野で調理師として活躍していることを喜ばしく思っています。

昭和学園は新しいモダンな校舎、広いグラウンドと教育環境は充実してきました。益々の発展と活躍をお祈りいたします。



調理科 今津屋 直子 先生 (関西学院大学 教授)

創立80周年、調理科50周年のお祝いを申し上げます。

私の在職した1984年～1987年の3年間の思い出のひとつに学園祭があります。調理科では郷土の産物を使ったお菓子の展示をし、梨や梅を使った様々なお菓子を考案しました。あのときのレシピは手元に残っておらず残念ですが、また、バザーのいなりずしやぜんざいを何百食もつくった記憶があります。生徒も教職員も一丸となってとりくみました。調理科は調理実習のグループワークが多かったので、団結力も強かったような気がします。昭和学園高校の益々のご発展と、昭和学園高校につながる全ての皆様のご活躍と平安をお祈り申し上げます。



※看護科卒業生より50周年を祝して※

桑野和子 昭和46年 衛生看護科卒 衛生看護科1期生

衛生看護科開設50周年おめでとうございます。
私が入学し、早50年もの時間が過ぎてしまったのかと改めてあの頃を思い出します。学生時代の1番の思い出は、臨床実習のことです。

甘木・湯布院へ行く交通の便がJRとバスしかなく大変なことでした。このことから反省会でスクールバスを買ってもらおう事となり、3年次にはとても楽になりました。

また、言葉の違い(方言・イントネーション)で指導者・患者との行き違い、感情の混乱等多々起こり、涙したこともありました。しかし、今では楽しい思い出となっています。

私たちの頃と違い、今の生徒さんは学業・生徒会だけでなく文化・スポーツ等々にリーダーシップを発揮し、活躍しておられる事を頼もしく、嬉しく、誇りに思います。

今私が思うことは、医学の進歩・看護の発展はあっても基本は変わらない、いくら技術革新が進もうと基本ができていれば困っている人に手を差し伸べることができるのです。

みなさん、若いスポンジみたいな脳に沢山の知識・技術を詰め込んでください。

50年前この学校で医学・看護を学ばせて貰うことが出来、本当に良かったなと感謝しております。

最後に、昭和学園高等学校の今後の益々の躍進と発展をお祈り申し上げます。



白水 鋭子 (旧姓:奈須) 昭和56年 衛生看護科卒

「今を生きる」
創立八十周年、並びに看護科五十周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。
先日、森山先生からのお電話。相変わらずの日田弁に明るいトーン、こちらまで元気をもらいました。

私も卒業して四十年。昭和・平成・令和と元号が変わり、「今を生きている」ということを痛感する年齢になってきました。高校卒業後、九州大学医療技術短期大学部看護学科へ進学し、専攻科助産学特別専攻へ進み、九大病院に就職しました。平成元年に結婚し、平成最後の年に主人を看取りました。令和元年には、孫も生まれます。

現在、神奈川県某総合病院マタニティセンターで、係長として新人助産師の自律を支援しつつ、業務改善を行っています。看護のしくみも変革期を迎え、機能別看護やプライマリーからPNS(パートナーシップナーシングシステム)へ発想の転換が求められています。二人一組でパートナーを組み、補完しあいながら、安全で質の高い看護を提供していくやり方です。他者に依存するのではなく、一人のプロフェッショナルとして、自らの頭で考え、共に何かを成す仲間との信頼に基づく対等な関係により、業務を遂行していくシステムで注目をあびています。新人と経験豊富なスタッフがパートナーとなることで、個々の特性が発揮でき、働き方改革にもつながっています。家庭を持ちながら働く女性を応援する社会のシステムが様々な場面で取り入れられています。今、私が取り組むべき使命？生き生きと女性が働ける環境を整え、子どもを産み育てることを幸せに思える社会を構築していくことだと思ひ、教育に携わっています。

働く女性を応援し続けている母校に感謝しつつ、私も微力ながら貢献していきたいと思っています。



角井めぐみ 昭和58年 衛生看護科卒 皮膚・排泄ケア認定看護師 専攻科講師



昭和学園高等学校創立80周年を心よりお祝い申し上げます。

私は昭和55年4月に昭和女子高校に入学し、貴重な3年間を過ごしました。当時の担当教員の佐藤龍生先生、大神信澄先生に熱心な指導を受け、また友人にも恵まれ充実した学生生活を送ることができました。特に、看護科は履修科目が多く大変だったことや、厳かな戴帽式で感動したことが懐かしく思い出されます。高校卒業後は、准看護師として勤務しながら看護専門学校に進学しました。看護師としての経験を積み、ひとりの患者さんとの出会いをきっかけに排泄障害の看護の専門性を追求することを決心。皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得し、大分大学大学院看護学科修士課程に進学し、高齢ストーマ保有者に関する研究に取り組みました。現在は皮膚・排泄ケア認定看護師教育機関で勤務し9年目になります。臨床経験は25年以上あっても、教えることは学ぶことであると日々改めて痛感しています。また、認定看護師の資格取得後は、未熟ながら昭和学園高等学校看護専攻科の外部講師として、後輩の指導に携わせていただき貴重な経験を与えていただいています。

高校卒業後の人生を振り返ると、私にとって高校生の多感な時期に専門的な学習ができたことは、より早い時期から看護の専門性を深める動機づけとなり、専門職としての生涯学習の基盤を作るきっかけになったと感謝しています。

最後になりましたが、母校である昭和学園高等学校の益々の発展を祈念いたします。

村上 睦美 (旧姓:大蔵) 平成5年 衛生看護専攻科卒 衛生看護専攻科1期生



創立80周年および調理科・看護科50周年、おめでとうございます。

私は、衛生看護科を経て衛生看護専攻科の1期生として、様々な学びを経験をしました。

高校時代は、吹奏楽部に所属して、毎日部活に打ち込みました。近隣の高校が甲子園出場を決め、お手伝いで共に甲子園で演奏することが出来たり、映画のエキストラとして、パレード出演させていただいたり、母校でしか出来ない経験をさせていただきました。

専攻科時代は、日々の実習があるなか、国家試験に向けての勉強もあり、本当に大変でしたが、看護師として仕事に就くことができ、充実した毎日を送ることができました。

現在は、結婚して一児の母となり、看護の道からは離れていますが、母校で学んだことは、いろいろな場面で思い出されます。

これからも校訓『努力精進・明朗融和・感謝奉仕』の心を持ち続けていきたいと思っています。

坂田 朋揚 (旧姓:上野) 平成19年 看護学科専門課程卒 看護学科1期生 保健師



看護科創立50周年おめでとうございます。

振り返ると昭和学園高等学校を卒業し、看護の道に入り、もう十年以上経ちました。その十数年の間に様々な出来事がありましたが、あっという間に月日が過ぎ去った様に感じます。現在は看護師ではない分野で仕事をしており、高校時代に想像していなかった人生を歩むことになり、人生は何があるかわからないなとしみじみ感じております。

今、私は看護師から保健師の資格を取り、行政保健師として日々仕事に勤んでおります。看護師として病棟で関わる患者さんはいずれ住んでいる地域に戻っていきます。私たち保健師はそういった患者さんやその地域に住むすべての住民の皆さんの健康を守るように日々仕事をしております。

看護師の時と違った難しさややりがいがありますが、昭和学園で学んだ看護の基本は共通していますので、昭和学園で学んだことを生かすことができしております。今、昭和学園で学んでいる在校生の皆さんもそれぞれの科で様々なことを学ばれていると思います。その学びは今後の人生において役に立つと思いますので、その学びを大切にしていって下さい。

私もこれからも昭和で学んだことを心に置きながら頑張っていきます。本当にありがとうございました。

※調理科卒業生より50周年を祝して※

後藤 美和 (旧姓:一ノ宮) 平成4年 調理科卒 専門調理師 本校非常勤講師



創立80周年、そして調理科、看護科50周年おめでとうございます。

私が昭和女子高等学校調理科を卒業したのは平成4年、学校で取得した調理師免許を活かし現在も病院の調理師として働いています。卒業後、高校時代の恩師より「専門調理師」というもう一つ上の資格に挑戦してみたらどうかという事で、15年前に取得しました。その資格のご縁で9年前にお話を頂き昭和学園の調理科で非常勤講師として後輩に調理を教える立場として務めさせて頂き今に至っております。

『生きる為に食べる食事』と言っても時代や環境・年齢と共に嗜好や形態も変化します。また医療業界の治療食は更に変化が早く、対応するには常に食に興味を持ち続けなければなりません。病院調理師という職業はとても奥が深いと今尚感じています。

私は現在、日本病院調理師協会 九州地区の会長を仰せ使っており同じ環境の方々と一緒に病院調理師や専門調理師として知識、技術の向上を目指し講習会を開催しております。母校の調理科で取得した資格のお陰で沢山の出会い、チャンス、勉強できる機会と環境に感謝しております。これからも初心を忘れず日々精進していきたいと思っています。

穴井 祐樹 平成20年 調理科卒 福岡市「ラ シゴーニュ」シェフ

昭和学園創立 80 周年誠にありがとうございます。
調理科も 50 周年を迎えた事を嬉しく思います。

私は小さい頃から料理に興味があり昭和学園 調理科に入学しました。
調理科では理論や栄養学、食品衛生などを学び部活動では 3 年間バトン部
で汗を流しました。学科以外の特別研修にも行かせてもらい、そこでお世話になった湯布院 山荘無量塔 アルテジオに就職することができました。

社会人 1 年目は知識は有るのに技術が無く毎日のように悔しくて泣いてました。2 年目、3 年目と、後輩
もでき少しずつ仕事を任されるようになりました。

そこでは 3 年半料理の基礎、お客様とのコミュニケーションの取り方、サービスの基本など今のベースと
なる物を学びました。

その中でフランスワインの美味しさに衝撃を受け、福岡市内にあるル フランマンローズ アムリタと言うワ
インバーにシェフとして 22 歳で入りました。今では系列のラ シゴーニュと言うフランス アルザス地方に
特化したお店を 1 店舗任され、経営や管理なども学んでいます。

今の自分があるのは昭和学園に入り本気で自分と向き合ってくれた先生、仲間が居たからだと言え
ます。本当に大きなきっかけを頂きました、感謝しています。



松尾 一成 平成24年 調理科卒 ホテル日航福岡 勤務

私は平成 24 年 3 月に昭和学園高等学校を卒業し、スピリッツオブマイスターへ進学後
研修先であった株式会社ホテル日航福岡へ入社しました。入社以来テーマレストランであ
る「レ・セレブリテ」で働かせていただいております、今年で 7 年目になりました。

料理の道へ入った当初は、周りのスピードについて行けず、オーダーもフランス語、慌
ててしょっちゅう指を切ったりするなど、この道は、自分には向いていないのではないかと
ずっと思っていました。しかし、その時に自分を奮立たせてくれたのは親であり、友達であり、母校の
恩師でした。ここで諦めると今まで応援してくれた方々へ申し訳ない気持ちで一杯になり、とりあえず 1 年
は頑張ってみようという気持ちを持てたので今日までやってこれました。

現在レストランで 1 番要であるポジションを任せられており、ランチメニューの開発も担当して 4 年目
になります。若いからできないのではなく、若いからこそ色々チャレンジして自分の可能性を広げるべきだ
と思います。これから社会人として未来へ羽ばたいていく後輩のみなさんへ、もし仕事が嫌だとか向いて
いないかと思っただけで、何故自分はその仕事をしているのかを考えてみてください。中学の時に専門学科
のある昭和学園を選び、それを応援してくれた周りの方々の事を考えるとやる気が出ると思います。とりあ
えず向いているかどうかなど誰にも分からないので 1 年は続けてみてください。将来一緒に働けるのを楽し
みにしています。



横溝 弘毅 平成24年 調理科卒 ホテル日航福岡 勤務

私は平成 24 年 3 月に昭和学園高校の調理科を卒業し、1 年間専門学校に通い卒業後、
ホテル日航福岡に入社しました。カフェレストラン、テーマレストランを経験し、現在
は宴会調理場で働かせてもらっています。主な仕事はパーティーなどで提供する冷製の
料理や婚礼の前菜などを作っています。入社してからは、自分の夢でもあった親の育て
た葡萄を使用し、デザートを考案させてもらったり、社内コンクールなどに参加し、い
ろいろな経験をさせていただいています。

なかなか厳しい環境ではありますが、お客様に料理を提供し、喜んでもらえることが何より嬉しくとて
やりがいのある仕事だと実感しています。

ここまで厳しい環境で続けてこれたのも昭和学園高校でお世話になった先生方のおかげだと思っていま
す。

何事にも挑戦する気持ちは大事なことです。あとから必ず結果はついてくると信じてまだまだ勉強中
です。お客様から喜んでもらえる料理を作れるよう日々精進し頑張っています。

学生の皆さんも今の時間を大事にしっかり楽しんで、しっかり学んでください。



繁田 透弥 平成28年 調理科卒 ホテル日航福岡 勤務

私が調理の道を選んだのは、中学生の頃で母の手伝いがきっかけというシンプルな物
でした。

高校を卒業して福岡の専門学校を経て、ホテル日航福岡に就職しました。当初は、
フランス語が多く飛び交う現場で仕事量がとても多く全てに圧倒され、とても悩みも多か
ったのですが、高校の先輩である松尾さん、横溝さん達に支えてもらいながら日々勉強に励
んでいました。

今年で 3 年目となり、学んだ事を後輩に教え新しいことにチャレンジができて、とても、充実した日々を
過ごしています。辛く苦しい時期もありましたが、それを乗り越えていくという楽しさもわかり、新しい事
を恐れずに進んでいけるようになりました。

高校 3 年間、とにかく楽しいことを探していた日々は社会に出ても変わることなく今も大切な自分の中の
柱となっています。高校 3 年間は、あっという間でした。在校生のみなさんは、自分で毎日を楽しむ面白
さに気づきこれから活躍して行ってほしいです。



～同窓会事務局より～

・昭和学園高等学校のホームページ内に設けました「同窓会だより」のコーナーでは、皆様の情報をお待ちしております。

同窓会開催の案内板や近況報告の場所として広く皆様に提供していきたいと思っております。

・昭和学園高等学校同窓会（花月会）は本年より総会を毎年行うことと致しました。

・住所氏名など変更になった場合はお知らせ下さい。

昭和学園高等学校事務室内 TEL:0973-22-7420 メールアドレス: tazaki@showa-h.ed.jp